

第2学年 美術科 学習指導案

松山市立東中学校 教諭 眞柴 さなえ

1. 単元名 あなたはデザイナー ～松山を「勝手にコラボ」でPR～

2. 単元の目標

- 形や色彩が感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に全体のイメージで捉えることを理解し、意図に応じて表現方法を創意工夫し、制作の手順などを考えながら、見通しをもって創造的に表す。 【知識及び技能】
- 松山市の特産品の魅力やよさを伝えるという目的や条件などから主題を生み出し、分かりやすさや美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練る。また、伝達のデザインの調和がとれた洗練された美しさなど、創造的な工夫について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 【思考力、判断力、表現力等】
- 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に松山市の特産品の魅力やよさを多くの人に伝えることなどを基に、表現したり鑑賞したりする学習の活動に取り組もうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3. 単元について

(1) 教材観

本題材は、自分達が住む松山市の魅力や、より多くの人に伝えることをねらいとしている。松山市の特色や、自分が感じている魅力などから発想を広げ、商品のパッケージをデザインする。伝達の効果と美しさの調和を総合的に考えることを通して、生活や社会の中の美術の働きについての見方や感じ方を深めさせたい。また、全国的に有名な商品と「勝手にコラボ」し、松山市に関するパッケージをデザインすることで生徒の意欲を高めるとともに、商品や自分たちの作品を鑑賞することで、それぞれのよさを感じ取り、よりよく伝えるための工夫について、主体的に学ばせたい。

また、デザイナーという職業が、自分の思いだけでなく、ターゲットに合わせたデザインを考えたり、地域のよさを伝えるにはどうすべきかを考えたりするという、相手や目的に応じた活動であることに気付かせるなど、地域や生活、社会において美術が果たす役割を考えることも大切にしたい。

(2) 生徒観

年度初めに行った教科に関するアンケートでは、「美術が自分の生活や社会の役に立つと思うか」という項目に対して肯定的に答えた生徒の割合が62%と少ないという課題が見られた。

私たちの身の回りには、相手に伝わるように分かりやすさや美しさなどを考え、形や色彩などを工夫し、デザインされた物や商品が多く存在する。しかしながら、普段の生活では、それらのデザインされた物や商品の造形的なよさや工夫についてあまり気付かずに、何となく見過ごしてしまうことが多いと考えられる。

(3) 指導観

題材の導入では、これまで学習してきた美術の「デザイン」が、生活や社会と大きく関わっていることに気付けるよう、松山市のまちづくり推進課や地元のデザイナーと連携してまちづくりやデザインに関する思いを実感させ、制作への意欲を高め、主体的に情報や材料を求めていくような授業展開につなげる。

自らの思いを大切にするために、制作するパッケージは、お菓子の袋や箱だけでなく、本の表紙やペットボトル、缶、紙袋など様々な選択肢を準備し、制作に用いる用具についても、多種多様な素材・用具を選択可能とする。材料等を自分たちで考えたり集めたりすることで、デザインのイメージを広げる手立てとする。

制作後には、デザインの生活や社会への関わりや役割を再確認するために、完成作品のプレゼンテーションによる発表を行い、自分の制作の意図を表現したり、友だちの作品を鑑賞したりする。また、松山市のまちづくり推進課の方、デザイナーの方にも見ていただき、自分たちの発信が松山のまちづくりに貢献できる実感を味わわせることで、地域の課題を美術で解決する姿勢を養いたい。

(4) ESDとの関連

・ 本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・ 多様性・・・松山市にはこれからも大切にしていきたいものや風景、よさがある。
- ・ 有限性・・・長く大切に守られてきたものや風景も、いつかはなくなってしまうかもしれない。
- ・ 相互性・・・松山市の魅力が全国だけでなく、住んでいる人にも伝わっていない。
- ・ 責任性・・・未来にきちんと引き継いでいくのは、ここに住む自分たちの使命である。

・ 本学習を通して育てたいESDの資質・能力

・ コミュニケーション力

アイデアを練ったり、アドバイスをしあったり、プレゼンを行ったりして、自分の考えを伝えたり、相手の意見を受け入れたりすることができる。

・ 批判的に考える力

自分たちの住んでいる松山をどれだけ愛着を持って住んでいるか見つめなおし、愛着を持たないまま住み続けていいのかを考えることができる。

・ 多面的・総合的に考える力

美術活動を通して、社会問題に主体的に向き合うことができる。

・ つながりを尊重する態度

デザイナーとの関りを通し、デザインの概念を知ること、他者を意識することの大切さを理解し、それを作品に生かそうとする。

・本学習で変容を促すESDの価値観

幸福感

自分も自分の周りも、その自分の住んでいる町や生活が豊かになることが、真の幸せ
世代間の公正

松山の風景や大切に受け継がれてきたものは、次の世代へ様々な形で引き継がなければならない。

・達成が期待されるSDGs

11 住み続けられるまちづくりを

4. 単元の評価規準

(ア)知識・技能	(イ)思考・判断・表現	(ウ)主体的に取り組む態度
① 形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、地域の魅力を伝えるデザインを全体のイメージで捉えることを理解している。(知)	① 多くの人に自分が住む地域の魅力を伝えるために、その地域の特色などから主題を生み出し、形や材料、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。(発)	① 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に自分が住む地域の魅力が多くの人に伝わるようなデザインを考え、工夫して表す表現の学習活動に取り組もうとしている。(態表)
② 意図に応じて材料や用具を選び、表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表している。(技)	② パッケージの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、デザインの意図や工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。(鑑)	② 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的にパッケージのデザインの意図や工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(態鑑)

5. 単元の指導計画 (全10時間)

時間	●学習のねらい・学習活動	評価の観点と評価方法					主体的に学習に取り組む態度	評価方法・留意点等
		知識・技能		思考・判断・表現		鑑賞		
		知識	技能	発想や構想	鑑賞			
1	1 課題の把握 ●松山市のまちづくりの意義や生活と美術との関わりについて気付く。 ・まちづくり推進課職員の話聞いて松山市の魅力発信の工夫について考える。			○	発言	ワークシート	[発]多くの人に松山市の魅力を伝えるために、松山市の特色と伝達の効果と美しさの調和に気付いているか見取る。	
1	2 表現の発想・構想 ●松山市の魅力に気付き主題を生						[発]松山市の特色などから主題を生み出そうとしているか見取る。	

	み出そうとする。 ・松山市の魅力を共有するために、グループでの話し合いをする。			○ 発言 ワークシート		
1	●松山のPR戦略を考えながら構想を練る。 ・松山市の魅力を何の商品とコラボするのか考える。			◎ 観察 ワークシート		<p>発 多くの人に松山市の魅力を伝えるために、特色などから主題を生み出し、形や材料、伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っているかを評価する。</p> <p>態 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に松山市の魅力が多くの人に伝わるようなデザインを考え、工夫して表そうとしているか見取る。</p> <p>・発想を広げるために、クラウドでの他者参照を取り入れる。</p>
1	●まちづくりへの思いやデザインの意義について理解する。 ・クライアントやデザイナーの話を聞き、デザインへの意義についての考えを深める。	◎ ワークシート			◎ ワークシート	<p>知 形や色彩、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に松山市の魅力を伝えるデザインを全体的なイメージで捉えることを理解しているかを評価する。</p> <p>態 美術の創造活動の喜びを味わい、パッケージのデザインの意図や工夫を感じ取る学習活動に主体的に取り組もうとしているか見取る。</p>
1	●松山市の魅力を発信するパッケージデザインを相手意識をもって構想を練る。 ・松山市の魅力を発信するパッケージデザインを考える。	○ ワークシート	○ ワークシート	○ ワークシート		<p>知 形や色彩、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に松山市の魅力を伝えるデザインを全体的なイメージで捉えることを理解しているかを評価する。</p> <p>態 美術の創造活動の喜びを味わい、パッケージのデザインの意図や工夫を感じ取る学習活動に主体的に取り組もうとしているか見取る。</p> <p>・自分のイメージに合った作品づくりが行えるよう、多種多様な素材・器具を使用してよいことを伝える。</p>

<p>6 【本時その5】</p>	<p>3 制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 構想を基に自分の表現意図に合う表現方法を工夫する。 ・ 画材は自分のイメージが最も表現できるものを選択して制作する。 ● 構想を深める。 ・ 構想に改善を加えながら表現方法を工夫して制作する。 	<p>○ ワークシート</p>	<p>○ ワークシート</p>	<p>○ ワークシート</p>			<p>知 形や色彩、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に地域の魅力を伝えるデザインを全体的なイメージで捉えているか評価する。</p> <p>技 意図に応じて材料や用具を選び、表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表しているか評価する。</p> <p>態 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に松山市の魅力が多くの人に伝わるようなデザインを考え、工夫して表そうとしているか見取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現に迷っているときに、すぐに他者の意見を聞くことができるよう、制作途中の段階での表現を共有する時間をとる。
<p>2</p>	<p>4 鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お互いの完成作品を鑑賞し、批評し合うことにより表現の工夫などを感じ取る。 ・ できた商品を意図や工夫について伝えることができるよう、プレゼンを制作して発表する。 ・ 学習を振り返り、美術と社会や生活との関わりについて考える。 	<p>◎ 観察 作品 ワークシート</p>			<p>◎ 観察 作品 ワークシート</p>	<p>◎ 観察 発言 ワークシート 作品</p>	<p>態 他者の完成作品を意図や工夫について考えながら鑑賞しているか見取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の意欲を高めるために、これまでに関わっていただいたデザイナー等をゲストに招く。 <p>態 美術が社会の役に立っていることに気付いているか評価する。</p>

○・・・題材の評価規準に照らして、適宜、生徒の学習状況を把握し指導に生かす。

◎・・・題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

6. 単元構想案

中学2年生 美術科「あなたはデザイナー～松山を「勝手にコラボ」でPR～」

11 住み続けられるまちづくりを



現在の学年終了時に目指す姿

地域の課題を美術で解決する姿勢を養い、美術と、生活や社会との豊かな関りを知り、今後の生活に生かせることを考える。また、美術は生活や社会に役に立っている、そして楽しく生きていくうえで欠かせないものであるということを実感させるようにする。

道後温泉や松山城の歴史や魅力を知ること、松山のシンボルとして守っていきたく思った。

美術科「あなたはデザイナー～松山を「勝手にコラボ」でPR～」

- 主に養いたい ESD の資質・能力
- 【多面的・総合的に考える力】
美術活動を通して、社会問題に主体的に向き合うことができる。
- 【つながりを尊重する態度】
デザイナーとの関りを通し、デザインの概念を知ること、他者を意識することの大切さを理解し、それを作品に生かそうとする。
- 主に育てたい ESD の価値観
- 【幸福感】
自分も自分の周りも、その自分の住んでいる町や生活が豊かになることが、真の幸せ

松山には、鯛飯や、松山寿司があるな。松山寿司は、正岡子規や夏目漱石とも関連があるな。

総合的な学習の時間

「ふるさと松山を住みたい街No.1にしよう」

自分が住んでいる地域について調べ、地域の良さや現状を知るとともに、その地域をよりよくするためにはどうすればよいかを考える。課題を見つけて、「よりよい町づくり」について具体的に考え発信することができる。

社会科「中国・四国地方の持続可能な地域像を考えよう」

中国・四国地方は、交通・通信網の整備で、持続可能なより良い地域になったかどうかを考えることができる。

家庭科「地域の文化食」

地域で生産される食材を知り、それを使う意義と和食の調理を理解する。

インターネットを通じて、地域の魅力を世界中に発信し、観光客を呼び込んでいることがわかった。

7. 授業の実践

(1) ゲストティーチャーによる講話

導入では、これまで学習してきた美術の「デザイン」が、生活や社会と大きく関わっていることに気付けるよう、松山市のまちづくり推進課や地元のデザイナーをゲストティーチャーとして招いた。このことによりまちづくりやデザインに関する思いを実感させ、制作への意欲を高め、主体的に情報や材料を求めていくような授業展開につなげた。(図1・2)



図1 松山市まちづくり推進課による講話



図2 地元のデザイナーさんによる講話

- 松山市まちづくり推進課の方の話聞いて、まちづくりの工夫、松山の魅力発信について考えたこと (生徒たちの感想)

・松山にたくさん観光客が来てもらうようにするために、松山の魅力やよいところを日本中に発信している

ことがわかった。

- ・松山市を調べることによって、松山市の魅力を再発見することができることに気付いた。
- ・松山市は、私の中では田舎だなと感じていてあまり魅力がないのではないかと思っていた。しかし、市役所の方の話聞くことで松山の魅力をたくさん知ることができた。

● デザイナーさんから学んだこと（生徒の感想）

- ・自分がデザインするときは、自分がターゲットになりきって、ほしいものを作ることを一番心掛けたい。食感を伝える文字などがあるだけで印象が変わることを今日の授業で知ったので、自分のデザインにも取り入れたい。
- ・僕は、今、あるお菓子の箱のデザインの中にある船の部分に松山城や道後温泉など松山に関する場所に変えてみたいと考えた。デザイナーさんが教えてくれた松山に合う色というものが、椿の花の紅色かなと考えたけど、既成の商品のイメージをあまり崩したくないので、迷っている。とりあえず、たくさんアイデアスケッチをして考えてみようと思った。

(2) 生徒たちが主体的に制作に取り組むための手立てと工夫

学習者主体の「学び合う学習」をおこなうための工夫や方策として、学びの選択肢を提供している。ベースになる素材、画材、教科書や人、インターネットなどの情報収集、ペアであったり、グループであったり学習形態、それらを生徒が自分の課題解決のために選択した。教師は、サポート役となり、生徒が個別に課題を設定して学習を進める。生徒の学習の過程をリアルタイムに把握し、個々に直接アドバイスしながら学習を支援する。個別最適な学びと協働的な学びが一体化した授業形式で行った。

また、制作中もデザイナーさんに来ていただき専門的なアドバイスをいただくことができた。(図3)



図3 自分なりの学習形態で取り組む

(3) 完成作品のプレゼンテーション

制作後には、デザインの生活や社会への関わりや役割を再確認するために、完成作品のプレゼンテーションを行い、自分の制作の意図を表現したり、友だちの作品を鑑賞したりした。また、松山市のまちづくり推進課の方、デザイナーの方にも見ていただいた。(図4)



図4 プレゼンテーション・鑑賞

さらに、松山の観光スポットでもある三津浜商店街の店に春休みに作品を並べ、観光客に見てもらった。このことにより、自分たちの発信が松山市のまちづくりに貢献することを体験することができ、地域の問題解決に美術が役立つことを実感することができた。(図5)



図5 展示の様子

(4) 生徒の作品・感想

【ミカンの枝】
：ターゲット
県外の人（子供の人から高齢者まで様々）
：キャッチコピー
まるやかミカンでうまうま
：販売目的
県外の人や県内の人に愛嬌をもっと知ってもらうため

ハイミカン

ハイレモンと松山のコラボ
中は、みかん味のラムネで、少し固くて、おいしい。ラムネ一つ一つがみかんのような感じになっていて、あけても楽しい。
みかんのおいしさと松山の良さを伝えたい商品

サクッ まつやまの里

ターゲット：松山に来た観光客
大人気商品
たけのこの里の
松山限定版！
サクッとした食感
とチョコの甘さが
ゆったりとした雰
囲気をつくって
疲れを癒す！

販売目的：松山に来た観光客に、道徳意識を伝えてほしい

期間限定！チョコパイ レトロな愛嬌の紅まどんな仕立て
松山が舞台の「坊ちゃん」とコラボパッケージ

ほのかに香る
紅まどんなピュレ

【販売目的】
県外の人に、松山市が、歴史や文化にあふれる場所だということをデザインで伝える。

【ターゲット】
県外に住む若い人や、子ども向けで、チョコパイが見てすぐ分かるシンプルなデザイン

スーパーやコンビニなど多くの所で売られているため、多くの人に見てもらえる。

CHOCO PIE
来年3月発売～！

- ・世界は、デザインであふれていて、そのデザインが人の役に立ったり、人を幸せな気持ちにしたりすると思った。すべての生き物や世界の人々に便利で美しく生きてもらえるようにデザインを考えたり、アイデアを想像したりするのは、とてもわくわくして、楽しいことだと感じた。
- ・デザインを考える際に、年齢層に応じた工夫が必要だと感じた。今まであまり関心を持たなかった松山に興味をもち、松山への愛着が湧いた。そして、自分が大人になったときに今よりもっと松山が有名になっているといいなと思った。
- ・松山を人気のお菓子と勝手にコラボさせたけど、もし商品化することができたら、すっごく売れてしまうんじゃないかと思いながら、わくわくしながら商品をきれいに仕上げていった。

8. 成果と課題

○ 成果

- ・図6のアンケートでは、「美術は社会の役に立っている」と答えた生徒の割合は学習前の62%から87%に増え、「役に立たない・分からない」が38%から13%に減っている。このことから、この学習を通して、デザインが、地域や生活、社会において美術が果たす役割を考えることができたと考えられる。(図6)

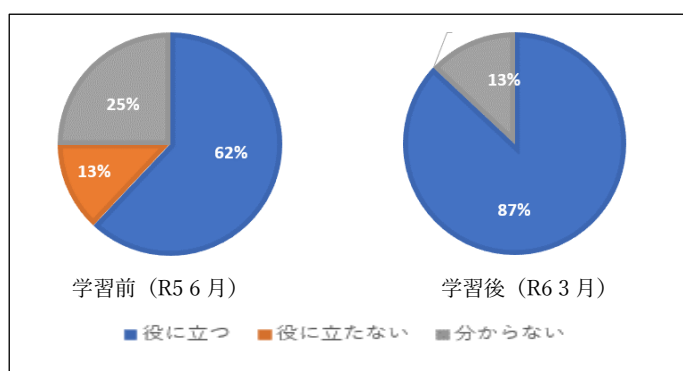


図6 美術は、社会の役に立っていると思うか？

- ・指導者の一斉指導を最小限にとどめ、生徒の協働的な学び合いのサポート役に徹した。題材を通して学習課題を示し、本時の課題は生徒一人一人が決めて行ったり、相談したいときに相談したい所へ自由に席を立てて聞きに行ったりするというスタイルは、生徒が主体的に活動できる環境であった。
- ・デザイナーやまちづくり推進課の方をゲストティーチャーとして招くことで制作への意欲を高め、主体的に活動することができた。

● 課題

- ・制作以降の活動の行動化を促せる手立てが必要だと考える。しかし、販売や展示方法には、制約がありなかなか難しい。